

文教地区の基盤工事着工 宅地部分の開発は未定

2010年6月号のベイタウンニュースで取り上げた文教地区（京葉線を挟み、ベイタウン東北に位置）の工事が数月前から始まったようなので、企業庁担当者に進展状況を確認しました。【城本】

工事が始まったのは、文教地区の約30ヘクタールの土地。もともと学校、教育機関が建設される予定でしたが、2008年に土地利用計画が見直され住宅機能を加えた街づくりが進められることになりました。2011年、開発地区の正式名称を「若葉住宅地区」と決定。住宅4000戸、居住人口1万人を想定した街づくりがスタートしました。現在は、住宅地区道路地下のインフラ整備が行われており、第一弾は今年3月末で終了予定です。ただし、下水道工事は第一弾で半分以上が完成しますが、電線共同溝は一部のみ。道路の表層も含め全てのインフラ整備が完了するのは半年以上先になりそうです。企業庁の土地造成事業は平成24年度末で終了することが決定しているため、それまでに道路及び公園（住宅地区中央部分）を完成させるべく、今後急ピッチで工事が進められます。その後、道路、公園は千葉市に移管されます（時期未定）。住宅建設予定の土地に関しては、行政の管理下ではなく、企業庁が処分し最終的には事業主に分譲する方向で検討されています。企業庁は、平成24年度中には処分を開始したいとの意向を示しています。ただ、今のところ事業主は未定であり、年度内にどれだけ動くのかは分かりません。実際にマンション建設がスタートするのは少なくとも4、5年先になりそうです。予定では、公園を囲む街区とインターナショナルスクール南側に位置する街区の低層階（地図参照）には商業施設が入ります。小学校、保育園予定地となっているところは、千葉市教育委員会が検討することになります。学校等の建設が実現するかどうかは、建設状況や住居人口によって変わってきます。

1995年に街開きしたベイタウンは、官・民共同で整備されました。プロムナードを中心にパティオスが立ち並ぶというヨーロッパ風沿道型住宅、地域とのコミュニケーションを重視した打瀬小学校の建設は、街全体の具体的なイメージに基づくものでした。一方、若葉住宅地区は、文教地区の未利用地活用というところからスタートしています。基本理念を「輝く人と街並みが融合する国際性豊かな街づくり」として開発が進められていますが、街の全体像はイメージしにくいものであり、出来上がって初めて見えてくることとなります。ベイタウンの隣接地区ではありますが、第二のベイタウンではなく、全く新しい住宅



ファーストウイング19階から撮影。油圧ショベルが多く入り、インフラ整備が行われている様子が分かる。

地区と考えるべきでしょう。しかし、ベイタウン住民にとって若葉住宅地区の商業施設や公園は日常生活で利用できるものですし、若葉地区の住民にとってもベイタウンは魅力あふれる街のはずです。二つの街で人の往来が活発になれば、双方活性化され賑わいます。若葉住宅地区は、ベイタウン住民にとっても影響を受ける街になるのです。完成までの期間、街が形作られていく様子を注目していきたいと思っています。



平成24年度末までに道路（赤色部分）及び公園が完成予定。住宅地区（オレンジ部分）低層階には商業施設が入る予定。

H7 街区の工事着工

本紙でもウォッチしてきたH7街区（第二中予定地→高層住宅地）の建設も今年2月1日に開始されることになり、現在（1/28時点）は敷地整備工事が行われている。12番街付近にあった樹林（街路樹の仮置き場）も撤去され、大きく育っていた樹木も伐採されて更地になってしまった。

H7街区には高層住宅棟と高齢者施設棟の2種類が建設される予定で、このうちベイタウンのシニアも期待する高齢者施設棟は今年2月1日着工、平成24年11月30日の竣工予定。高層住宅棟は同じく2月1日着工し平成26年3月31日の竣工予定。高齢者施設棟には一般の高齢者向け住宅のほか、デイケアなどの施設の建設も期待されるが公営のものでなく事業者（三菱地所、

丸紅）の開発となるため住民のニーズをどの程度満たすものとなるかは未定だ。公共地として予定していたH7街区なので、高齢者向け施設についても住民と内容について積極的に意見を聞くなどしてもらいたいものだ。【松村守康】



新春恒例もちつき大会

1月7日(土)。今年も、晴天の下、青少年育成委員会主催のもちつき大会が開催された。今年用意されたもち米の量は、約100Kg/800人分。材料の仕入れなど、準備は、夏祭りが終わった直後から始めたようだ。今年も、もちをつく体験だけの「べったんコース」に加えて、こねる所から、もちをつき、まるめて味付けまで行う「しっかりコース」の2コースが用意された。神楽太鼓が流れる中、広場のあちらこちらで子どもたちの「ヨイショ、ヨイショ」の歓声があがった。【取材と撮影：板東、金】



ベイタウンの七不思議 「28KM」の謎に迫る!!

初めまして、味岡怜太です。お父さんと一緒にベイタウンニュースの配布と編集を手伝ってます。今回は、ベイタウンの七不思議の一つ、謎の「28KM」の距離表示の真相にお父さんと一緒に迫ってみました。七不思議のあと6つはみなさんで探してみてください。探せばいろいろあると思います。

さて、謎の「28KM」は、打瀬第一公園の南側の、海浜大通り側の角にあります。ちなみにグーグルマップのストリートビューにも写ってます。それにしても、唐突に谁的脈絡もなく、ただ、「28KM」。なんでですか? 一体って感じですね。

今回は、その謎の真相に迫ってみました。謎を追うに当たって、いくつかルールを決めました。

1. 市役所とか企業庁とかのお役所には聞かない! 2. 学校の先生にも聞かない!

理由は正解がすぐに解っちゃってつまらないから。そこでいろいろ考えてみました。

まず、①時速28KMで走れってことを試してみました。僕の自転車にはスピードメーターが付いて無いので、お父さんのロードレーサーに前を走ってもらい、時速28kmを保ちながら、「28KM」の角を左折してみます。信号が変わるのを待って、お

父さんとせーの!の合図で一気に28KMに加速して、そのまま「28KM」の角を左折。なんとか走れるけど、ちょっと危ない感じ。こんなスピードで交差点を曲がるのは危ないし、なんだか意味無いな〜ってことで、コレは正解ではないな。

次に、②スピードでないのであれば、次は距離表示かな? 距離表示で、たぶん、駅伝かマラソン。あの場所はなんか大きな大会で使ってるのかな? 解らないこと何はともあれヤフー検索! 「幕張ベイタウン 駅伝」で検索してみると…おっ! たくさん出てきた!! どうやら国際千葉駅伝の5区のコースになっているみたい。動画もいっぱい公開されてるし。

あとは確認だな。コース図を見てみると、まあ、なんとなく、良い感じでコースになってそうな感じ。でも、「27KM」や「29KM」が無いのはおかしいな? で、コース図に沿って、花見川を渡る橋のあたりを自転車で探してみると…無いな。ベイタウンにあるのが「30KM」なら、「27KM」や「29KM」が無くて不自然じゃないけど、「28KM」ってことは1K刻みで表示があってもおかしくないよな〜?

消し忘れ? まあ、このセンの検証はこ

れ以上は無理だな。たぶん、この仮説は結構良いセン行ってると思うけど、正解を知ってる方はベイタウンニュースにメール下さい。【味岡 怜太】



ベイタウンの七不思議 28km ポストは どうでしたか。この記事はたまたま編集会議に出席していたサポーターの味岡君(小6)に「不思議な標識があるので調べて見たら?」と持ちかけたところ、すぐに調べて記事を書いてくれました。

ベイタウンの七不思議を調べて記事にするのはとても面白いことです。小中学生のみなさんも探してみてください。七不思議がみつかったらベイタウンニュースに記事を書いてください。ベイタウンの小中学生なら誰でもいいです。友達やお父さん、お母さんと一緒でもかまいません。「editor@baytown-news.net」まで。

子どもの本のプロに聞く 子どもと本の出会い方

子どもの頃、わくわくした気持ちでページをめくり、主人公とともに物語の世界を旅した…そんな本が誰にでも何冊かあるだろう。幼児から子ども時代という多感なときにどんな本に巡り合うかで、その後の人生においても本を楽しめるかどうかが決まってしまう、と言ってもいいかもしれない。

千葉市内の各図書館には、子どもと本を結びつけるナビゲーターとも言える子どもの本の担当職員がいる。打瀬分館では、子どもの本を担当して十数年のキャリアをもつ関明美（せきあけみ）さんが、お子さんと本との出会いを手助けしてくれる。関さんに、本好きな子どもを育てる極意を教えていただいた。【佐藤】

子どもに、本を好きになってもらいたい…親は誰もがそう願うだろう。想像力を豊かにしてくれる、言葉を育ててくれる、はたまた字を覚えるため、受験のため(!?)と理由はいろいろだが、しかし、よかれと思って本を買って与えても子どもにそっぽを向かれてしまったという経験はないだろうか。

まずは強制しないこと。読書が喜びであり楽しみのためでなければ長続きはしない。かと言って、子どもの好みに任せっきりにするのもダメ。子どもはメディアの影響を受けやすく、内容の浅いものになってしまうがちだ。

では、どうすればいいのだろうか。関さんは専門家として3つのポイントをあげた。1つは読み聞かせ、昔話の語りの体験から

生まれる“聞く力”の育成だ。

「言葉の世界に深く入り込んでもらうためには、字の読めないうちから聞く力を身につけることが大切です。耳から入ってくる言葉から目に見えないもの、たとえば主人公の幸せ、悲しみ、愛といった生きる上で大切なものを感じることができるようになります。親御さんには、豊かな言葉で子どもたちに語ってほしいですね」

この読み聞かせは、子どもが本を読めるようになっても続けていくと、まだ子どもだけでは読めない良質の本に出合わせてあげることにもつながるといふ。親子で一冊の本に一喜一憂してみるのも楽しそうだ。

2つめのポイントは、読む力を育ててくれる魅力的で感動のある本にどれだけ出合わせてあげられるかである。そうした本を見分けるにはどうすれば？

「時代や国を超えて読み継がれている、古典、名作というものならまちがいはありません。今回ご紹介した『小公子』は

辰年にちなんで『エルマーのぼうけん』の飾り付けがされている絵本コーナー。すべて職員さんの手作り！



1886年に出版されましたが、今も全世界で翻訳され、子どもたちに愛され続けています。ただし、気を付けていただきたいのは、こうした本の本当の力を伝えてくれるのは“完訳本”と呼ばれるものだけです。子ども向けのダイジェスト版や絵本がたくさん出版されていますが、短くされて内容が変わったり、原作にない登場人物が出てきたり…。これではせっかくの名作の魅力が伝わってきません。お子さんが読める年齢になったらぜひ完訳本を読ませてあげてください」

記者自身、『小公子』のストーリーは知っているが、果たして完訳本かという点に甚だあやしい。早速、読み直してみたいとなった。

3つめは、子どもたちを取り巻く環境である。手の届くところに本があって、お父さんやお母さんが本を読んでいる姿がある…。もちろんこれが理想だが、そんな余裕は…という方には、図書館がおすすめだ。打瀬分館だけで1万8000冊余の児童書を有し、他の図書館ともネットワークでつながっている。「おはなし会」(毎月第4木曜日)「わらべうたを楽しもう」(第2水曜日)などの、“聞く”力を育む催しから、子どもの本のような相談にも気軽にのってくれる。子どもの頃読んで、また読みたいが書名を忘れてしまった!という本まで探してくれる。そういう意味では、子どもばかりでなく、大人もぜひ立ち寄って、子どもの頃胸を躍らせて読んだ本と再会してみるのも楽しいかもしれない。



2月のコア・イベント

2月18日(土) わくわくお話し会 2月の常設お話し会

日時: 2月18日 第3土曜日 10:30から
場所: ベイタウン・コア講習室
予約不要 途中入場できます。
今月もわくわくするお話を用意しておまちしています。
年齢制限はありません。絵本の好きな大人も子どももぜひきてね!
予約は不要です。読み手も募集中 見学大歓迎!
ブログ更新中・見てね** <http://waku.makusta.jp/> **
お問合せ先: 井上 (043-211-0188 wak2@yahoo.co.jp)

2月25日(土) 寺子屋工作ランド

内容はコアアトリウムに展示してあります
日時: 2月25日 第4土曜日 9:30から11:30
場所: ベイタウン・コアエ芸室
持ってくるもの: 小刀、セロテープ 参加費: 50円(保険料)

2月19日(日) 第2回千葉ギター音楽祭

日時: 2月19日(日) 11:00頃~17:00頃予定
会場: 幕張ベイタウンコア・音楽ホール(定員約200名)
入場無料(全席自由席、先着順)
問合せ: 090-6482-9418(上原)
主催: 千葉ソロギターサークル(代表・上原淳)
公式ブログ: <http://nao2010.blog11.fc2.com/>

2月26日(日) 第102回ファツィオリの会

日時: 2月26日 第4日曜日 9:30~11:30
場所: ベイタウン・コア 音楽ホール
予約不要 途中入場できます。
月に一度、街のみなさんが演奏するミニコンサートです。
非公開でもご利用できますので、お気軽にお申込みください。
定員になり次第締め切らせていただきます。
最新のプログラムは <http://www.baytown.ne.jp/core/> をご覧ください。
申込締切 2月19日(日)
申込先 TEL & FAX 276-4266(庄司)
chacha-c304@m2.pbc.ne.jp

ようこそ先輩コーチ 球技大会リトルティーチャー派遣計画

ベイタウンでは毎年1月に3小学校対抗で球技大会が行われているが、この大会、実は中学生も協力している。名付けて「球技大会リトルティーチャー派遣計画」。打瀬中学校のサッカー、バスケット部員が、出身校の球技大会チームをコーチするというものだ。しかもこの指導には打瀬中学校の各種部活の先生も一緒にコーチに向かうという。こんな楽しい(?)企画は初めてだ。さっそく早朝7:30からのサッカーの朝練を海浜打瀬小で取材した。【松村守康】

朝、眠い目をこすりながら校庭につくと、やっているやっている。海浜打瀬小6年生30人ほどに交じって、少し体格がいい中学生5人がグラウンドをかけまわる。大声を上げて熱心に指導しているのは中学のサッカー部顧問、石川先生だ。

小学生11人のチームに対して中学生は5人の変則ゲーム形式の練習だが、それでも試合は圧倒的に中学生がリードする。去年までは一緒にクラブで練習していた先輩達の圧倒的な成長ぶりに驚きながらも小学生チームも必死に食らいつく。ゴールが決まると控えの選手席からは大きな歓声がある。

同じ時間にアリーナでは打瀬中女子バスケット部20人も後輩達を相手に練習を指導していた。顧問の佐久間先生に「朝早くから大変ですね」と声をかけると、「子どもたちは朝練は慣れているので平気です」と応えてくれた。

3小学校対抗というだけあって、子どもたちの盛り上がりは大変なもので、大会目前になると選手は学校の名誉をかけて毎日のように練習に励む。各校とも朝の練習が中心だが、朝練のほかに放課後という学校もある。

中学生たちがリトルティーチャーとして練習に協力するのは1月の4日間(女子バスケットは6日間)だけだが、登校前の忙しい時間を割いて母校の後輩達を指導する。

球技大会本番 今年優勝したのは？

今年の球技大会本番は1月24日午後1:00から海浜打瀬小学校を会場に行われた。男子サッカーは校庭、女子バスケットはアリーナを使い、3小学校のチームが総当たりで試合を行い勝敗数で順位を決めた。大会は毎年各小学校持ち回りで行われ、会場となる小学校では6年生の他に全校生徒と父兄が熱い応援を繰り広げる。今年の球技大会結果は、男子サッカーは美浜打瀬小が優勝、以下海浜打瀬小(準優勝)打瀬小(3位)、女子バスケットは連続優勝を狙う美浜打瀬小を海浜打瀬小が破り、2度目の優勝を飾った。打瀬小は3位だった。



リトルティーチャー派遣計画は打瀬中学校と3小学校独自の行事だ。はじまった時期は不明だが、石川先生が2年前に打瀬中に赴任したときにはすでに行われていたという。派遣計画はこの他にも毎年秋に3校対抗陸上競技大会で陸上部が部員を派遣。そして今年3月1日には受験をすませた中学3年生が学習リトルティーチャーとして小学校に指導に赴く。

石川先生は「中学生がそれまでいた小学



ベイタウンに津波襲来！ そのとき学校では

2012年1月18日、午前9:15。茨城県沖でマグニチュード8クラスの地震が発生。ベイタウンを含む東京湾千葉県側一帯に津波注意報が発令。こんな想定で海浜打瀬小学校では全校で津波避難訓練が行われた。2時間目の授業中だった子どもたちはすぐに避難開始、担任の先生の引率に従い、クラスごとに近隣の4つのマンションに避難した。高学年はビーチテラスとブエナテラサ、低学年は公園西の街、そして中学年は東の街とあらかじめ決められた計画に従って避難。予定どおり10分で無事避難は完了した。

通常地震避難などでは児童は学校で待機となるが、津波の場合は構造上そうはいかない。比較的 안전한近隣マンションに避難の方が安全だ。だがそうすると一時的にせよ各マンションには他の街区の児童も避難してくる。受け入れたマンションでは子どもたちを居住者宅に入れる訳にはいかないので階段など比較的 안전한共用部分で待機させることになる。二次的な事故なども考えると避難の場所だけ提供すればいいという訳にはいかない。このため受け入れ側のマンションでは管理組合も協力し、児童の父兄だけでなく4つのマンションで合計



校で年齢差のない後輩たちと練習や勉強をすることはとてもいい試み。小学生にとっては数年後の自分の具体的な目標を知ることができ、中学生にとっては自分の成長を実感できる」と話してくれた。

160人のボランティアが小学生の避難を受け入れたという。

実はベイタウンには津波の際にどうするかという防災対策はまだない。地震だけでなく津波注意報が発令された場合、子どもたちはどこへ避難させればいいのか。今回の避難訓練は学校側が近隣のマンション管理組合に声をかけ、5月から休日にも打ち合わせをするなど何度も住民側と折衝して実現した。

マンションの街ベイタウンでは津波対策はどうするか。学校や各マンションの管理組合が独自に対策を考えるだけでは追いつかない。今は情報の共有さえできていない状況だ。街全体で考える必要があるのではないだろうか。【松村守康】

